

品質管理(QC)基礎講座

海外製品と競合する国内におけるものづくりにおいて、図面に基づき製品品質を造りこむことは非常に重要となります。とりわけ企業の製造工程におけるライン担当者及び品質管理担当者が、品質管理(QC)の知識を習得することは安定した高品質なものづくりに不可欠な要素です。

中小企業技術センター中丹技術支援室では、ものづくりの現場における生産管理能力および製品信頼性の確保を目的として、7月25日から9月5日にかけて5回シリーズで「品質管理(QC)基礎講座」開催しました。受講者数は延べ178人でした。



第1回「品質管理概論および品質保証活動編」

7月25日(水)

講師:(有)テクノ・コンサルティング 藪野 嘉雄 氏

日本の品質管理の変遷や品質管理の基本的な定義を知るとともに、統計的な考えに基づく管理手法である「QC七つ道具」を活用することの重要性を学びました。

品質保証活動については、品質保証の定義や考え方やその重要性、さらにステップ別の品質保証活動の内容や方法及び留意点などを学びました。

第2回「品質管理実施法編」

8月8日(水)

講師:(有)長田経営研究所 長田 徹 氏

品質管理を全社的に推進するために、全社的品質管理(CWQC、TQC)、日常管理、方針管理、QCサークル活動、標準化などの取り組み内容や進め方について学びました。

また、工程の管理については、工程管理の概要を把握するとともに、QC工程表などを活用して、管理のサイクル(PDCA)を回すことが重要であり、その留意点について学びました。

第3回「品質管理の手法編(前編)」

8月22日(水)

講師:(有)坂井経営技術研究所 坂井 公一 氏

品質管理では「事実に基づく管理」が重要であり、事実を効率よく正しく把握し、管理・改善などを効果的に進めるためのデータのとり方や注意点を学びました。

品質管理を効果的に実施するために、主に数値データの解析用に整理された手法として、「QC七つ道具」があり、パレート図などの作り方や留意点や使い方を学びました。さらに、異なる層の間(原料、機械、人、時

間など)のばらつきの原因を探るために役立つ「層別」についても、その作り方や分析の方法について学びました。

第4回「品質管理の手法編(後編)」

8月29日(水)

講師:(有)坂井経営技術研究所 坂井 公一 氏

品質管理を効果的に実施するための手法である「QC七つ道具」のうち、ヒストグラムなどの使用目的や作り方や留意点や使い方などを学びました。さらに、工程の品質に関する能力を表す工程能力指数(Cp、Cpk)についても、その求め方や工程能力の有無の判断基準などを具体的に学びました。

また、「新QC七つ道具」についても、その手法と特徴などについて学びました。

第5回「問題解決編および標準化編」

9月5日(水)

講師:多根井経営コンサルタント事務所 多根井 重裕 氏

工程改善には、「問題解決型」と「課題達成型」があり、それぞれの改善の手順、その進め方や留意点などについて、具体的な事例も交えて学びました。

標準化については、工業標準化の目的や意義として、①科学技術の成果の普及、②社会秩序や生活の便益の増大があり、標準(規格)の種類には、国際規格、地域規格、国家規格、団体規格、企業内規格などがあることを理解するとともに標準化の重要性を学びました。

好評につき、
来年度も実施を計画しています。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
中丹技術支援室

TEL:0773-43-4340 FAX:0773-43-4341
E-mail: chutan@mtc.pref.kyoto.lg.jp